



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラク：政府・国会による米軍駐留継続の拒否および米軍撤退要求の大規模デモ
(9日付サバーハ紙ほか)

1. ゲイツ米国防長官の提案に対するイラク政府の拒否

〔ダッバグ政府報道官（国務相）発言〕

- (1) マーリキー首相はゲイツ米国防長官に対し、イラクにおける米国含め外国の存在は、イラク人にとって適切ではなく、国内および地域問題となるので、イラク政府は米軍や外国のいかなる存在も望まないと述べた。
- (2) 国会議員筋によると、同長官はイラク要人との会談にて、2012年以降、3万から1万5千人の兵士を主要都市から離れた場所に駐留することを提案し、多数の要人から拒否された。

2. イラク政府の立場に対する国会の支持

- (1) 国会安保・国防委員会は、米軍駐留延長問題の協議、あるいは投票に付すという考えを拒否した。
- (2) 国民同盟（NA）、クルド同盟、アフラール・ブロック等所属の各議員は、各々の政党各派は、政府と同様、米軍の駐留延長に反対する立場をとると述べた。

3. デモの実施（8日）

- (1) バグダードをはじめ、イラク諸県にて米軍駐留に反対し、公共サービス改善を求めるデモが実施された。このデモはイラク占領8周年記念の前日に行われた。
- (2) 8日付バグダーディーヤ TV の報道によれば、デモの報道は、バグダード県で数千人、諸県でも数百人以上であったようである。

4. 米軍撤退を求めるサドル派主導の大規模デモ

- (1) 9日、バグダードのムスタンスィリーヤ広場にて、数万人のサドル派支持者が、米軍の撤退や行政汚職の根絶を求めるデモを行った。
- (2) ムクタダー・サドル師は、もし米軍が期限どおりに撤退を行わなければ、抵抗を強化し、マフディー軍による活動を再開すると声明で述べた。同声明は、サラーフ・アル・オベイディー（サドル派政治委員会総括）によって代読された。オベイディー師は、米国はすぐに出て行けと繰り返し警告した。群衆は米国旗とジョージ・ブッシュ元大統領の肖像を燃やした。
- (3) カマール・アル・サアディー国会議員（サドル派）は、もし米軍が期限を越えて残留すれば、平和的抵抗は終わり、軍事的抵抗が再開されると述べた。